

2020

The Behaviormetric Society

日本行動計量学会

第48回大会 抄録集

Proceedings of the 48th Annual Meeting of the Behaviormetric Society

2020年9月1日(火) ～ 9月4日(金)

早稲田大学 戸山キャンパス



早稲田大学

日本行動計量学会

第 48 回大会プログラム

日本行動計量学会第 48 回大会は、2020 年 9 月 1 日から 4 日まで早稲田大学戸山キャンパスで開催させて頂くことになりました。早稲田大学戸山キャンパスは、地下鉄東西線早稲田駅から徒歩 3 分の便利な位置にあります。早稲田大学戸山キャンパスには、文学部、文化構想学部がありますが、両学部の源流には、坪内逍遙博士らによる東京専門学校文学部創設（1890 年）にまで遡ることができます。文学部創設以来、「学問の自由」「清新な気風」「個性豊かな在野の学風」という建学の精神のもと、教育・研究のさらなる充実を推進しようとしています。文学部創設当時は、坪内逍遙博士も心理学を講じたと伝えられています。また、本校の創立者の大隈重信は、杉亨二らが何回も明治政府に要望していた統計機構の拡大強化の建議を基に、統計院の創設を決意し、1881 年（明治 14 年）4 月に統計院の設立について建議し、統計院が同年 5 月に設置されると、自ら院長に就任しました。このように、本校は、心理学、統計の実務に関する長い歴史を持っており、さらには、行動計量学関係の多くの研究者を輩出しており、行動計量学とも関連の深い歴史を持つとも言えるかもしれません。

早稲田大学で行動計量学会大会を開催するのは実ははじめてになります。大会実行委員会は、早稲田大学の教員、早稲田大学院文学研究科心理学コースの大学院や大学院 OB を中心に構成されております。本大会の会期の 9 月初旬は、例年、他の学会大会も重なる時期で、会員の皆様にとってもご多忙な時期かと存じますが、どうか是非ご参加いただけますようお願いいたします。

日本行動計量学会第 48 回大会実行委員会
委員長 竹村和久
(早稲田大学 文学学術院)

大会の概要

1. 基本情報

- (1) 期間：2020年9月1日（火）～2020年9月4日（金）
1日（火）はチュートリアルセミナー
- (2) 会場：早稲田大学戸山キャンパス 36号館（新宿区戸山1-24-1）
- (3) URL：<http://bsj.wdc-jp.com/2020/index.html>
- (4) 問い合わせ先：
大会ヘルプデスク (bsj-desk@bunken.co.jp)
大会実行委員会 (bms48taikai@googlegroups.com)
- (5) 大会の構成：
9月1日（火） 15:45～18:45 チュートリアルセミナーB
チュートリアルセミナーAはPDF資料を配信
9月2日（水） 13:30～14:30 基調講演
14:50～16:50 大会シンポジウム
9月3日（木） 中止
9月4日（金） 中止
- (6) 大会の対面開催中止について：
 - 8月6日の理事会の決定により早稲田大学での学会大会の対面開催が中止となりました。
 - チュートリアルセミナー、基調講演、大会シンポジウムは、ネット配信とします。
 - 第48回大会での研究発表（口頭発表、ポスター発表、ラウンドテーブル、シンポジウム、チュートリアルセミナー等）については、日本行動計量学会第48回大会抄録集に掲載されている研究内容を、すべて第48回大会において発表されたものとします。ただし、期限までに参加費等が振り込まれていない場合には、業績としての発表を取り消します。

2. 大会までのスケジュール

- | | |
|---------------|---|
| 2020年2月13日（木） | Web公開 |
| 2020年4月中旬 | 大会参加事前申込，一般発表申込，抄録原稿受付
チュートリアルセミナー参加申込，各種開始
特別セッション（口頭・ラウンドテーブル）の企画募集開始 |
| 2020年6月29日（月） | 特別セッション企画募集締め切り，一般研究発表申込締め切り（延長しました） |
| 2020年7月15日（水） | 抄録原稿提出締め切り，著作権譲渡書類提出締め切り（延長しました） |
| 2020年7月下旬 | 速報版プログラムのウェブ公開予定 |

2020 年 8 月 3 日（月） 事前参加申込締め切り
 2020 年 8 月 6 日（木） 事前参加費振込み締め切り
 2020 年 9 月 1 日（火）～9 月 2 日（水）第 48 回大会（チュートリアルセミナー1 日）

3. 参加費等

(1) チュートリアルセミナー参加費

※ 本年の事前登録はございません(当日参加のみとなり，参加費は無料となります)。

(2) 大会参加費

	正会員	準会員 (学生)	賛助会員	非会員 (一般)	非会員 (学生)
早期振込	6,000 円	3,000 円	6,000 円	10,000 円	6,000 円
当日支払	8,000 円	5,000 円	8,000 円	12,000 円	8,000 円

- 大会参加費には抄録集 1 冊を含みます。
- 正会員には名誉会員・シニア会員を含みます。
- 賛助会員は 3 名様まで無料です。事前に参加券を 3 枚お送りしますので，この券を持参された方が対象です。4 人目以降は，上記金額です。
 なお，事前参加申込みより無料の登録を行った方も，当日必ず参加券をご持参ください。
- 抄録集は 1 冊 3,000 円で頒布します。
- 早期振込は Web による参加申込（8 月 3 日（月）まで）・参加費振込（8 月 6 日（木）まで）ともに行われた方が対象です。
- 参加費のお振込みまで完了頂いた場合，参加キャンセルはできませんのでご注意ください。

(3) 懇親会費

※ 本年の懇親会は新型コロナウイルス感染症流行のため，中止となりました。

4. 振込先

	ゆうちょ銀行 振替口座
記号番号	00190-4-386225
加入者名	日本行動計量学会大会
口座名称（カナ）	ニホンコウドウケイリョウガツカイタイカイ

他の金融機関からゆうちょ銀行へお振り込みされる場合は、下記情報をご利用ください。

銀行名	ゆうちょ銀行
店名	〇一九店（ゼロイチキュウ店）
店番	019
預金番号	当座
口座番号	0386225

※恐れ入りますが、振込手数料はご負担くださいますようお願い申し上げます。

早稲田大学での学会大会の開催中止について

新型コロナウイルス感染症の流行に伴い早稲田大学の8月以降の施設利用方針が変更され、このことを受けた8月6日の理事会での審議により、計画されていた対面開催が中止と決定されました。

また4月の申し込み時の通知を原則として、下記の対応を行います。

1. 研究発表の取り扱いについて
第48回大会での研究発表（口頭発表、ポスター発表、ラウンドテーブル、シンポジウム、チュートリアルセミナー等）については、日本行動計量学会第48回大会抄録集に掲載されている研究内容を、すべて第48回大会において発表されたものとします。ただし、期限までに参加費等が振り込まれていない場合には、業績としての発表を取り消します。
2. 大会抄録集の印刷・送付について
大会参加費早期振込者全員に、大会抄録集と領収証を送付します。9月中に発送する予定です。
3. 早期振込の大会参加費等について
大会参加費は返金せず、大会抄録集の印刷・送付の費用のほか、開催準備に要した経費、キャンセル料等に充当します。残金が生じた場合は、翌年以降の大会開催のための費用に充当します。
4. チュートリアルセミナー、基調講演、大会シンポジウムについて
無料でのネット配信とします（これについては4月の理事会では中止の予定でしたが、8月の理事会で追加されました）。

一般セッションについて

本大会は、ある特定テーマについて議論を行う「特別セッション」と一般研究発表を行う「一般セッション」から構成されます。第48回大会の一般セッションの発表形態には、「ポスター」と「オーラル（口頭）」があります。

【ポスター】

8月6日の理事会の決定により早稲田大学での学会大会の対面開催が中止となりました。研究発表の取り扱いについては5ページを参照してください。

【オーラル（口頭）】

8月6日の理事会の決定により早稲田大学での学会大会の対面開催が中止となりました。研究発表の取り扱いについては5ページを参照してください。

特別セッションについて

本大会は、ある特定テーマについて議論を行う「特別セッション」と一般研究発表を行う「一般セッション」から構成されます。第48回大会の特別セッションの発表形態には、「オーラル（口頭）」と「ラウンドテーブル」があります。

【オーラル（口頭）】

8月6日の理事会の決定により早稲田大学での学会大会の対面開催が中止となりました。研究発表の取り扱いについては5ページを参照してください。

【ラウンドテーブル】

8月6日の理事会の決定により早稲田大学での学会大会の対面開催が中止となりました。研究発表の取り扱いについては5ページを参照してください。

ポスターセッションについて

8月6日の理事会の決定により早稲田大学での学会大会の対面開催が中止となりました。研究発表の取り扱いについては5ページを参照してください。

ラウンドテーブル・ディスカッションについて

【ラウンドテーブル・ディスカッションの目的】

ラウンドテーブル・ディスカッションは、円卓を囲み、話題提供者（「発表者」・「オーガナイザー」）のテーマにより自由に意見を交換しながら議論する場です。しかし、議論した結果が特定の結論に至ることを課題としません。

ラウンドテーブル・ディスカッションは研究成果を報告するだけではなく、現在抱えている研究上の疑問、現場での課題、課題についての解決策などを持ち寄り、参加者全員で当該のテーマについて議論します。また、これまでの現場での体験や研究成果をもとに新たな仮説を提案し、それをもとに議論することも可能です。

また、議論した内容を踏まえた上で、話題提供者だけでなく、フロアーにいらっしゃる方々の研究についても、改めて深く考えていただき、今後のご自身の研究をどのように発展させたいかを考え、その内容をグループで共有し、さらに意見や感想をやりとりしていただくような研究者の交流の場としてもご活用いただければと思います。テーブルを囲む参加者（討論者）は自由に発言できますし、それ以外の参加者であるテーブルの周囲の聴衆（オブザーバー）も議論に参加することも可能です。

【セッションの運営について】

8月6日の理事会の決定により早稲田大学での学会大会の対面開催が中止となりました。研究発表の取り扱いについては5ページを参照してください。

チュートリアルセミナー

日 時： 2020 年 9 月 1 日（火）

テーマ A：PDF 資料を配信 テーマ B：15 時 45 分～18 時 45 分

テーマ A： ベイズ統計における情報量規準とクロスバリデーション

講 師： 渡辺澄夫 先生（東京工業大学 情報理工学院 教授）

場 所： ネット配信（PDF 資料の配信）

※詳細は p.11 のネット配信をご覧ください。

概 要：

ベイズ統計では、与えられたデータに対し分析者が統計モデルと事前分布を設計する。データを発生した真の分布（未知である）に対して統計モデルと事前分布の適切さを調べるために広く用いられている方法が情報量規準とクロスバリデーションである。このチュートリアルではこうした問題に初めて出会う人のために、以下のことがらを述べる。(1) 真の分布を推定するという観点から最尤法とベイズ法はどのように異なるかを述べる。(2) 情報量規準とクロスバリデーションには様々なものが提案されているが、それらの紹介と比較を行う。(3) 潜在変数を持つモデルへの応用の例を紹介する。

テーマ B： マーケティング研究におけるランダム化フィールド実験の活用

講 師： 守口剛 先生（早稲田大学 商学大学院 教授）

場 所： ネット配信（リアルタイム配信）

※詳細は p.11 のネット配信をご覧ください。

概 要：

近年、マーケティング研究においても、他の社会科学領域と同様に、ランダム化フィールド実験を用いた研究が数多く行われるようになってきている。この手法の特徴は大きく 2 つある。その第 1 は、現実のフィールドを舞台とすることによって、マーケティング活動と消費者行動の双方についてリアリティの高いデータを捕捉できること、第 2 は、ランダム化によって厳密な因果関係の捕捉を目的とするということである。本チュートリアルでは、マーケティング研究、消費者行動研究およびその周辺で研究を行っている方々のために、ランダム化フィールド実験を実施する際の留意点を整理するとともに、この手法を用いた研究例を紹介する。

懇親会

本年の懇親会は新型コロナウイルス感染症流行のため、中止となりました。

基調講演

本大会では情報システム研究機構統計数理研究所所長兼理事の椿広計先生が基調講演を行います。椿先生は、東京大学工学部計数工学科を卒業され、東京大学から工学博士を授与され、東京大学、慶應義塾大学、筑波大学で教鞭をとられ、統計数理研究所に勤務され、現在は、NPO 法人横断型基幹科学技術研究団体連合代表理事・副会長、(一社)品質工学会会長をなされています。椿先生の専門分野は、品質管理、新薬臨床試験、環境計測、官庁統計と幅広く、どの分野をとっても日本の統計の歴史を実体験として語れるキャリアを持っていらっしゃるだけでなく、統計数理をはじめ、幅広い理論に造詣の深い先生です。

日 時： 2020 年 9 月 2 日（水）13:30～14:30

会 場： ネット配信（収録動画）

※詳細は p.11 のネット配信をご覧ください。

タイトル： 統計的方法の Scope Management

講 演 者： 椿広計 （統計数理研究所 所長兼理事）

司 会 者： 竹村和久（早稲田大学 文学学術院 教授）

第 48 回大会シンポジウム

第 48 回大会では以下のとおり、大会シンポジウムを実施します。

日 時： 2020 年 9 月 2 日（水） 14:50～16:50

会 場： ネット配信（リアルタイム配信）

※詳細は p.11 のネット配信をご覧ください。

タイトル： コロナ報道の検証と反省：将来予測と政策の計量のために

司会者： 竹村 和久（早稲田大学 文学学術院 教授）

講 演 者：

松原 望（東京大学 名誉教授）

「政府の 8 割行動削減提言についての統計学的妥当性と検討課題」

宮沢 孝幸（京都大学 ウイルス・再生医科学研究所 准教授）

「新型コロナウイルスの性質とウイルス学的感染回避方法」

藤井 聡（京都大学大学院 工学研究科 教授）

「新型コロナに関わる政府系「専門家」の数値分析公表行為に関する科学者倫理的検証」

討 論 者：

椿 広計（統計数理研究所 所長兼理事）

概 要：

新型コロナウイルス（COVID-19）の世界的な感染の流行を受け、わが国でも 2020 年から感染が拡大し、同年 4 月には緊急事態宣言が出されて、多くの国民は自粛生活を送ることになった。このような中であって、新型コロナウイルスやそれに関する感染症状、予防のための行動制限政策に関する広報や報道が、インターネット、新聞、テレビなどのメディアで盛んに流された。例えば、厚生労働省の広報、政府対策本部の専門家会議、専門家会議や厚労省クラスター対策班等の関係者で組織された専門家の有志の会など政府関係からの広報、新聞報道、NHK などのテレビ報道、インターネットの記事など、様々な形での報道がある。本シンポジウムは、こうした報道、広報がどのような傾向をもっていたのか、科学的エビデンスに基づく合理的推論をもとにしたものであったかなどを、いくつか事例をもとに検討する。また、政府が採用した行動制限政策などの広報が統計学的・行動計量学的に妥当であったかについても検討を行う。今後に起きるかもしれない危機的事態の将来予測と政策効果の計量に役立てるためにも、今回のコロナ報道の検証を行うシンポジウムを企画した。

ネット配信について

チュートリアルセミナー・基調講演・大会シンポジウムにつきましては、以下のように、収録動画・リアルタイム・PDF 資料のいずれかによるネット配信を行います。ネット配信の URL リンクは、各企画の開催前にメールで配信されます。

また、各企画のネット配信に関しましては、下記の注意事項にもご留意くださるよう、お願い致します。

1. 収録動画による配信

- 基調講演

事前に講演者の先生に収録頂いた講演動画を配信いたします。

2. リアルタイムによる配信

- チュートリアルセミナーB
- 大会シンポジウム

Zoom ウェビナーにて、リアルタイムで配信いたします。時間に余裕があれば質疑応答が、Zoom ウェビナーの Q&A 機能を用いて行われます。

3. PDF 資料の配信

- チュートリアルセミナーA

講演資料 PDF を配信いたします。

注意事項：

- ・ ネット配信される各企画に関しましては、Zoom によるレコーディングや、その他の機器を用いた録画・録音等を行わないようお願いいたします。
- ・ チュートリアルセミナーA を除き、配布資料はございません。
- ・ リアルタイム配信による配信で開催される企画を除き、参加者からの質疑応答は受け付けておりません。

プログラム

チュートリアルセミナーA	
タイトル：	ベイズ統計における情報量規準とクロスバリデーション
講師：	渡辺澄夫（東京工業大学）
会場：	ネット配信（PDF資料を配信）

9月1日	
15:45 ～ 18:45	チュートリアルセミナーB
タイトル：	マーケティング研究におけるランダム化フィールド実験の活用
講師：	守口剛（早稲田大学）
会場：	ネット配信（リアルタイム配信）

9月2日	
13:30 ～ 14:30	基調講演
タイトル：	統計的方法のScope Management
講演者：	椿 広 計（統計数理研究所）
司会者：	竹村和久（早稲田大学）
会場：	ネット配信（収録動画）
14:50 ～ 16:50	シンポジウム
タイトル：	コロナ報道の検証と反省：将来予測と政策の計量のために
登壇者：	松原 望（東京大学），宮沢 孝幸（京都大学），藤井 聡（京都大学）
討論者：	椿 広 計（統計数理研究所）
司会者：	竹村和久（早稲田大学）
会場：	ネット配信（リアルタイム配信）

9月3日	
中止	

9月4日	
中止	

9 月 2 日(水)

9 月 2 日(水) ネット配信(収録動画)

基調講演

司会者: 竹村 和久(早稲田大学 文学学術院 教授)

統計的方法の Scope Management

○椿 広計(統計数理研究所 所長兼理事)

9 月 2 日(水) ネット配信

シンポジウム

司会者: 竹村 和久(早稲田大学 文学学術院 教授)

討論者: 椿 広計(統計数理研究所 所長兼理事)

コロナ報道の検証と反省: 将来予測と政策の計量のために

政府の 8 割行動削減提言についての統計学的妥当性と検討課題

○松原 望(東京大学 名誉教授)

新型コロナウイルスの性質とウイルス学的感染回避方法

○宮沢 孝幸(京都大学 ウイルス・再生医科学研究所 准教授)

新型コロナに関わる政府系「専門家」の数理分析公表行為に関する科学者倫理的検証

○藤井 聡(京都大学大学院 工学研究科 教授)

特別セッション

(8月6日の理事会での対面開催の中止決定に伴い、
大会抄録集での掲示のみになりました。)

心理学におけるモデリングアプローチの展開 II(1)

オーガナイザー: 小杉 考司(専修大学人間科学部)

SB1-1

犯人の居住地はどこ？

犯罪行動に対するモデリングアプローチ

○小野 修一(山口県警察本部科学捜査研究所)

SB1-2

古典的条件づけにおける学習過程の分析

○二瓶 正登(専修大学大学院文学研究科), 北條 大樹(東京大学大学院
教育学研究科), 澤 幸祐(専修大学人間科学部)

SB1-3

主観的な経過時間判断における自己関連付け効果

～認知モデルを用いた処理過程と個人差の検討～

○島津 奈留(東京大学大学院教育学研究科)

SB1-4

回答者の背景情報を考慮した認知診断モデル

項目と個々の特性の関連の程度を考慮したモデルへの拡張

○丹 亮人(東京大学), 伊藤 徹郎(Classi 株式会社), 岡田 謙介(東京大
学)

SB1-5

Q matrix estimation algorithm using variational inference and stochastic
optimization

○岡 元紀(東京大学大学院教育学研究科), 岡田 謙介(東京大学大学院
教育学研究科)

心理学におけるモデリングアプローチの展開 II(2)

オーガナイザー: 小杉 考司(専修大学人間科学部)

SB2-1

値引とポイント付与の統計モデリング: 潜在クラスモデルを用いた傾向分類

○安藤 正和(専修大学大学院文学研究科心理学専攻), 小杉 考司(専修大学)

SB2-2

ベイズ統計モデリングによるプロスペクト理論の確率荷重関数の推定

Decision by Sampling モデルからのアプローチ

○清水 裕士(関西学院大学社会学部)

SB2-3

SC-IAT による潜在的自尊心の測定と自尊心尺度の関連の検討

○柏原 宗一郎(関西学院大学 社会学研究科), 清水 裕士(関西学院大学)

SB2-4

繰り返し社会的ジレンマゲームにおける意思決定モデルの構築

—ベイズ統計モデリングによるモデル比較—

○水野 景子(関西学院大学社会学研究科), 清水 裕士(関西学院大学社会学部)

SB2-5

対人関係の力動的変化のモデリング

○小杉 考司(専修大学人間科学部)

最悪の意思決定に関する研究

オーガナイザー: 玉利 祐樹(静岡県立大学)

SB3-1

社会が悪い意思決定を選ぶ時

「裸の王様」を進化ゲーム理論で解き明かす

○中丸 麻由子(東京工業大学環境・社会理工学院)

SB3-2

Axiomatic Understanding of Bad Decision

○竹村 和久(早稲田大学文学学術院)

地球環境問題の「問題」についての考察と実証研究

オーガナイザー: 吉野 諒三(同志社大学)

SB4-1

地球環境問題の「問題」を考える

○吉野 諒三(同志社大学), 陳 艶艶(福岡工業大学), 鄭 躍軍(同志社大学文化情報学部), 林 文(東洋英和女学院大学)

SB4-2

環境意識の社会的規定要因

一日独比較の視点からー

○鄭 躍軍(同志社大学 文化情報学部)

SB4-3

2013 年～2019 年における寧陽県農村部現地調査レポート

○陳 艶艶(福岡工業大学 社会環境学部)

SB4-4

持続可能な開発目標と市民意識

○角田 弘子(日本ウェルネススポーツ大学 スポーツプロモーション学部)

非対称近接性データ行列の分析

オーガナイザー: 今泉 忠(多摩大学経営情報学部)

SB5-1

An elementary theory of a dynamic weighted digraph (3)

○千野 直仁(愛知学院大学心身科学部)

SB5-2

分位点ノルムを用いた多次元尺度構成法について

○土田 潤(東京理科大学工学部情報工学科), 宿久 洋(同志社大学文化情報学部)

SB5-3

ブロック部分行列からなる非対称類似度行列の分析のための多次元尺度構成法の検討

○今泉 忠(多摩大学経営情報学部)

SB5-4

非対称多次元尺度構成法によるブランドロイヤルティの評価

○岡太 彬訓(立教大学名誉教授), 鶴見 裕之(横浜国立大学 大学院国際
社会科学研究院)

ラウンドテーブルディスカッション

『PISA 調査の解剖』に書かれていること、書かれていないこと

オーガナイザー: 褒岩 晶(国立教育政策研究所)

SB6-1

大規模学力調査の実施手順と日本の学力調査への応用

○篠原 真子(国立教育政策研究所)

SB6-2

PISA 調査における調査モデルの変遷

○褒岩 晶(国立教育政策研究所)

一般セッション

(8月6日の理事会での対面開催の中止決定に伴い、
大会抄録集での掲示のみになりました。)

教育

司会者: 大森 拓哉(多摩大学経営情報学部)

C1-1

条件付分布による因果効果

○繁桝 算男(慶應義塾大学), 古野 公紀(立命館大学), 池本 駿(慶應義
塾大学), 赤林 英夫(慶應義塾大学)

C1-2

算数・数学問題における誤りの類型化と自動抽出の試み

○大森 拓哉(多摩大学経営情報学部)

C1-3

経営学部ゼミナールにおける改良版プログラミング教育システムの効果および分析

LEGO MINDSTORMS EV3 を利用したプログラミング教育

○中野 統英(追手門学院大学 経営学部), 原田 章(追手門学院大学 経営学部)

C1-4

複数等質テスト構成技法を用いた適応型テストの項目選択手法の提案

○宮澤 芳光(大学入試センター), 植野 真臣(電気通信大学)

C1-5

等質テスト構成のための整数計画法を用いた最大クリーク探索の並列アルゴリズム

○湊本 壱真(電気通信大学大学院情報理工学研究科), 植野 真臣(電気通信大学大学院情報理工学研究科)

C1-6

中央値補正法による得点調整後の得点分布について

○菊地 賢一(東邦大学理学部)

数学・統計

司会者: 江島 伸興(京都大学高大接続・入試センター)

C2-1

Within-Person Variability Score-Based Causal Inference

A Two-Step Semiparametric Estimation for Joint Effects of Time-Varying Treatments

○宇佐美 慧(東京大学高大接続研究開発センター)

C2-2

因子分析における解釈可能な共通因子の決定法

○江島 伸興(京都大学高大接続・入試センター)

C2-3

負荷量順序制約付きスパース主成分分析

○浦上 新太(同志社大学統計科学研究室), 宿久 洋(同志社大学文化情報学部)

C2-4

Density Peaks Clustering を基にした逐次クラスタリング

○多賀 友哉(慶應義塾大学理工学部), 鈴木 秀男(慶應義塾大学)

C2-5

2 値データに対する因果探索の検討

交絡への対応が可能な一般化

○稲岡 雄介(大阪大学大学院 基礎工学研究科), 鈴木 譲(大阪大学大学院 基礎工学研究科)

C2-6

アダプティブラーニングのための時系列 IRT

○堤 瑛美子(電気通信大学大学院), 植野 真臣(電気通信大学)

政治・経済

司会者:猪口 孝(桜美林大学 アジア文化研究所)

C3-1

高価格物件を考慮した中古マンションの売買価格予測

ドメイン知識に基づいたルールベースと機械学習の融合による小サンプルデータの学習

○三田 匡能(株式会社 GA technologies)

C3-2

健康課税に対する行動傾向の分析

○櫻井 宏明(文教大学経営学部), 森 一将(文教大学経営学部)

C3-3

Open Street Map を活用した交通機関に関する騒音リスクマップの開発

○石田 康博(株式会社 GA technologies), ブラムソン アーロン(株式会社 GA technologies)

C3-4

地球政治学の理論化二例 ― 多国間条約参加態様からつくる地球的経緯の類型学と日常生活満足度からつくるアジア社会類型学

政治学では主権国家に焦点を当てすぎる嫌いがある。グローバリゼーションの諸力が大きく働いていることを計量的に析出し、地球政治学の理論化の試みを2個示す

○猪口 孝(桜美林大学 アジア文化研究所)

C3-5

Data Analyses of Correlation between Armed Conflict and Social Capital

○芝井 清久(統計数理研究所／ROIS-DS)

C3-6

被験者自己申告結果に依拠したフィールド実験の陥穽

途上国での開発援助政策評価を例に

○三上 了(愛媛大学 法文学部人文社会学科)

心理・認知・情報

司会者:椎名 乾平(早稲田大学教育学部)

C4-1

非認知的能力を計測するための探索的なデータ分析

○山本 美紀(帝京大学 理工学部), 草山 太一(帝京大学), 竹内 俊彦(駿河台大学), 立野 貴之(松蔭大学), 若山 昇(帝京大学)

C4-2

報酬形態を考慮した拡張秘書問題のしきい値モデルを用いた検討

○古川 結唯(東京大学大学院教育学研究科), 岡田 謙介(東京大学大学院教育学研究科)

C4-3

Web 調査による心理尺度の因子構造の毀損の要因とその対策

日本語版 Short Grit(Grit-S)尺度の用いた検証

○西川 一二(京都大学教育学研究科), 楠見 孝(京都大学教育学研究科)

C4-4

消去法を反映した多枝選択型認知診断モデル

○福島 健太郎(東京大学), 岡田 謙介(東京大学)

C4-5

Likert 評定時のカーソル軌跡のクラスター分析

○椎名 乾平(早稲田大学教育学部)

C4-6

科学館における来館者の満足度向上と科学館スタッフのスキル向上貢献のための回遊行動分析

○井上 恵(産業技術総合研究所 人工知能研究センター), 山下 和也(産業技術総合研究所 人工知能研究センター), 内藤 まゆこ(産業技術総合研究所 人工知能研究センター), 古田 真理(産業技術総合研究所 人工知能研究センター), 高岡 昂太(産業技術総合研究所 人工知能研究センター), 本村 陽一(産業技術総合研究所 人工知能研究センター)

言語・文化

司会者:金 明哲(同志社大学文化情報学部)

C5-1

異なるジャンルの文章が共在する場合における著者識別分析

○柳 燁佳(同志社大学文化情報学研究科), 金 明哲(同志社大学文化情報学部)

C5-2

テキストマイニングによる企業の倒産分析

○許 麗夢(同志社大学文化情報学研究科), 金 明哲(同志社大学文化情報学部)

C5-3

想起されたフレーズの長さから読み解く宇野浩二の文体変化

金 明哲(同志社大学文化情報学部), ○劉 雪琴(同志社大学文化情報学研究科)

C5-4

トピックモデルに基づいた現代小説の接続表現の分析

金 明哲(同志社大学文化情報学部), ○李 広微(同志社大学文化情報学研究科)

C5-5

構文情報に基づく中国語文章の著者識別

○李 芸萱(同志社大学), 金 明哲(同志社大学文化情報学部)

C5-6

茶杓造形の計量分析—藪内家の茶杓系統について—

○耕三寺 華蓮(同志社大学大学院文化情報学研究科), 金 明哲(同志社大学文化情報学部)

マーケティング

司会者:篠原 正裕((株)インテージ)

C6-1

中高生の子供と母親の被服行動・価値観の相違について
多母集団モデルによる検討

○齋藤 慎也(大阪経済大学経営学部), 芳賀 麻誉美(大阪経済大学経営学部)

C6-2

接客行為に対する快不快の要因分析
評判と個人特性の影響について

○竹内 大真(大阪経済大学経営学部), 芳賀 麻誉美(大阪経済大学経営学部)

C6-3

カテゴリ別の新商品採用時期を用いた革新性尺度の検討

○玉倉 滉一郎(大阪経済大学経営学部), 池邊 将規(大阪経済大学経営学部), 芳賀 麻誉美(大阪経済大学経営学部)

C6-4

新しいカテゴリの商品・サービスの採用と個人の革新性の関係性分析
カテゴリ別採用時期に基づく革新性尺度の応用可能性の検討

○池邊 将規(大阪経済大学経営学部), 玉倉 滉一郎(大阪経済大学経営学部), 芳賀 麻誉美(大阪経済大学経営学部)

C6-5

広告弾力性に寄与する商品特性・広告出稿特性の検出

○篠原 正裕((株)インテージ), 岡 律子((株)インテージ)

C6-6

オケーション認知を用いた SNS 投稿による広告の効果測定に関する研究

○鈴木 貴士(筑波大学大学院 ビジネス科学研究科), 村山 朗(株式会社 deepblue), 緒方 敦(株式会社 ジェイアール東日本企画), 横山 暁(青山学院大学 経営学部マーケティング学科), 久保田 進彦(青山学院大学 経営学部マーケティング学科)

マーケティング・経営

司会者: 上田 雅夫(横浜市立大学)

C7-1

入社試験における直感評定の妥当性評価と評定に影響を与えるパーソナリティ特性の検討

○森 一将(文教大学経営学部), 河合 美香(明星大学), 橋本 貴充(大学入試センター), 大江 朋子(帝京大学)

C7-2

「昆虫食に対する態度に与える情報効果と個人特性効果の分析」
昆虫食普及のために

○岡本 大起(大阪経済大学経営学部), 芳賀 麻誉美(大阪経済大学)

C7-3

主観的厚生を用いた企業評価の検討

○上田 雅夫(横浜市立大学)

C7-4

上場企業が新卒社会人に求める非認知能力モデルの構築

○伊藤 徹郎(Classi 株式会社データ AI 部), 芳賀 麻誉美(大阪経済大学)

C7-5

農業関連施設への訪問と旅行に共通した感性モデルの構築に向けて

○三浦 まりあ(産業技術総合研究所), 櫻井 瑛一(産業技術総合研究所), 本村 陽一(産業技術総合研究所)

C7-6

Consumer Forecasting による市場予測力の検討

—カテゴリ別・対象者属性別の予測性能比較—

○芳賀 麻誉美(大阪経済大学)

教育・数学・統計

司会者: 荘島 宏二郎(大学入試センター研究開発部)

C8-1

項目反応理論と深層学習を用いた評価者バイアスに頑健な小論文自動採点手法

○岡野 将士(電気通信大学大学院情報理工学研究科), 宇都 雅輝(電気通信大学大学院情報理工学研究科)

C8-2

ループリック評価のための多相項目反応モデル

○宇都 雅輝(電気通信大学), 植野 真臣(電気通信大学)

C8-3

大規模学力調査における項目反応理論を用いた得点の等化方法の比較

○袈岩 晶(国立教育政策研究所), 篠原 真子(国立教育政策研究所)

C8-4

Rankclustering

Biclustering for (sample ranking) X (variable clustering)

○荘島 宏二郎(大学入試センター研究開発部)

教育・医療

司会者: 坂部 創一(創価大学理工学部情報システム工学科)

C9-1

コホート調査に参加同意した妊婦におけるベースライン調査の未回収に関連する要因

子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)参加者を対象に

○城川 美佳(神奈川県立保健福祉大学), 土田 暁子(富山大学学術研究部医学系), 浜崎 景(富山大学学術研究部医学系), 稲寺 秀邦(富山大学学術研究部医学系)

C9-2

統合失調症患者の精神症状と対称図形に対する選好

○岩満 優美(北里大学大学院医療系研究科医療心理学), 小林 史乃(株式会社越谷心理支援センター), 竹村 和久(早稲田大学文学学術院), 西澤 さくら(鶴賀病院), 塚本 康之(鶴賀病院), 川杉 桂太(早稲田大学文学学術院), 延藤 麻子(鶴賀病院), 小平 明子(鶴賀病院), 轟 慶子(鶴賀病院)

C9-3

新型うつ傾向予防のためのレジリエンス向上に関わるインターネット利用効果分析

○坂部 創一(創価大学理工学部情報システム工学科), 山崎 秀夫(常葉大学健康プロデュース学部)

社会

司会者: 真鍋 一史(統計数理研究所・データ科学研究系)

C10-1

One Hot Encoding と共通数量化

カテゴリ変数の前処理

○岡本 安晴(日本女子大学)

C10-2

調査票調査で性的指向・性自認を捉える

SOGI 設問の試験的調査に基づく考察

○釜野 さおり(国立社会保障・人口問題研究所 人口動向研究部), 岩本 健良(金沢大学人文学類), 平森 大規(Department of Sociology, University of Washington)

C10-3

誰が将来の社会に肯定的見通しを持つのか

震災後日本における将来社会認識と社会的地位

○村瀬 洋一(立教大学社会学部)

C10-4

潜在プロフィール分析における前提条件が解に及ぼす効果

○村上 隆(中京大学 文化科学研究所)

C10-5

S. Schwartz の概念／理論枠組みにもとづく価値観の国際比較
ドイツと日本における「大学生調査」のデータ分析
○真鍋 一史(統計数理研究所・データ科学研究系)

ポスター発表

P01

脳概念処理を対象とした機械学習モデルの開発
○箕輪 裕(東京工業大学), 赤間 啓之(東京工業大学)

P02

モンテカルロ法を用いた犯行地点分布の分類
○平間 一樹(科学警察研究所), 横田 賀英子(科学警察研究所), 大塚 祐輔(科学警察研究所), 和智 妙子(科学警察研究所), 渡邊 和美(科学警察研究所), 矢部 直人(東京都立大学)

P03

重みを課したグラフィカル lasso によるポートフォリオの比較
○重本 秀人(関西学院大学大学院)

P04

心的回転に対する diffusion modeling の有効性の検証
○武藤 拓之(京都大学こころの未来研究センター)

P05

医薬品の製造販売後における安全性活動の因子分析
○田辺 竜ノ介(中外製薬株式会社医薬安全性本部安全性リアルワールドデータサイエンス部)

P06

縦断調査での冒頭宣誓の効果
○増田 真也(慶應義塾大学看護医療学部)

P07

質問紙における無回答項目の発生と性格特性の関連
○島田 大祐(名古屋大学大学院情報学研究科), 片平 健太郎(名古屋大学大学院情報学研究科)

P08

関心データを用いた関係人口増加の試み

Attempt to increase related population using interest data.

○ファン タンクアン(NEC ソリューションイノベータ株式会社), 山本 純一(NEC ソリューションイノベータ株式会社), 星野 光一(NEC ソリューションイノベータ株式会社), 福井 知宏(NEC ソリューションイノベータ株式会社)

P09

Behavioral intention change analysis of waste separation at source in international university

An application of the Theory of Planned Behavior

○HU Jiarong(立命館アジア太平洋大学), Tang Kelvin(立命館アジア太平洋大学), QIAN Xuepeng(立命館アジア太平洋大学)

P10

自記式質問紙調査における多項選択法への回答行動の分析
アイトラッキングによる分析

○浅川 雅美(文教大学), 岡野 雅雄(文教大学), 林 英夫(医療法人豊明会)

P11

日本における新しい消費者態度指数(consumer sentiment index)の提案

○大村 華子(関西学院大学総合政策学部)

P12

感謝データを用いた組織内の相互信頼の可視化の試み

○山本 純一(NEC ソリューションイノベータ株式会社), 福井 知宏(NEC ソリューションイノベータ株式会社), 西井 一輩(NEC ソリューションイノベータ株式会社), 加藤 一郎(NEC ソリューションイノベータ株式会社), ファン タンクアン(NEC ソリューションイノベータ株式会社)

P13

監督者不在のオンライン試験における眼球運動特性を用いた聴覚利用型不正行為の検出

高難易度長文読解の場合

○大出 憲吾(成蹊大学大学院), 松島 悠流(成蹊大学), 安田 晶子(一橋大学), 小方 博之(成蹊大学理工学部)

P14

教員採用試験の出題傾向を探る 2

○萩生田 伸子(埼玉大学教育学部)

P15

健康情報からの意識的・無意識的な忌避と運動習慣の行動変容との関連の
検証

当研究所「ヘルスケアに関する意識と行動についての調査」より

○渡辺 直紀((株)明治安田総合研究所 ヘルスケア・デジタル研究部)

日本行動計量学会第 48 回大会

主催: 日本行動計量学会第 48 回大会実行委員会

於: 早稲田大学戸山キャンパス

開催日: 2020 年 9 月 1 日～9 月 4 日

○ 実行委員会

大会実行委員会委員長

竹村 和久(早稲田大学)

事務局長

村上 始(早稲田大学)

実行委員

井出野 尚(徳山大学)

上田 雅夫(横浜市立大学)

大森 拓哉(多摩大学)

加納 由将(早稲田大学)

川杉 桂太(早稲田大学)

楠岡 栞(早稲田大学)

小島 隆矢(早稲田大学)

佐々木 邦明(早稲田大学)

椎名 乾平(早稲田大学)

杉澤 武俊(早稲田大学)

玉利 祐樹(静岡県立大学)

永田 靖(早稲田大学)

松居 辰則(早稲田大学)

守口 剛(早稲田大学)

李 之林(早稲田大学)

劉 放(早稲田大学)

若山 大樹(駒澤大学)

○ 協賛(2020 年 7 月 20 日現在)

株式会社 朝倉書店

株式会社 NTT データ数理システム

株式会社 北大路書房

一般社団法人 社会調査協会

株式会社 有斐閣

編集: 日本行動計量学会第 48 回大会実行委員会

発行: 日本行動計量学会